

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	修正 使用 措置	感染症(ヤ)	出典	概要
630	2007/10/17	70630	持田製薬	インターフェロン ベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・ 製造工程	有	無	無	ウエストナイル ウイルス感染	Hoy Digital エストレ マドゥーラ新聞 2007年3月21日	ABC新聞は昨日、スペイン国内初のナイルウイルス感染 者の診断結果を発表した。21歳男性が2004年にバルベ ル・デ・レガネスで蚊に刺され感染した。発見者の研 究グループはナイルウイルスの研究を2003年から始め、3 年間、病院で検出されたウイルス性脳膜炎や髄膜炎の症 例からナイルウイルスを探し求めてきた。
												ウイルス感染	Herald Sun online 2007年4月22日	オーストラリアVictoriaで、一人のドナーから臓器移植を受 けた3例が死にいた。当初、原因不明であったが、コロ ンビア大学の専門家の協力を得て、未知のウイルスが原因 であることが明らかとなった。このウイルスは黄熱病、エ ボラおよびリッサ性脈絡髄膜炎の原因となるばく菌類媒介 アレナウイルス科に属していた。3例の移植患者すべての 多数の検体からこのウイルスが検出された。臓器移植に より伝播したと思われる。
												細菌感染	第81回 日本感染 症学会総会・学術 講演会(2007年4月 10-11日) W17-2	北海道から九州の6病院において肺炎患者を有する8名の 患者のかつぐ喉または気管洗浄液から抗酸菌を分離し、分 離菌の集落形態、培養・生化学的・分子遺伝学的性状並 びにミコール酸のHPLCについて検討した。全ての分離菌 は共通の集落形態、培養・生化学的性状を示した。分子 遺伝学的にも高い相同性を示した。4つの分離菌株由来 のミコール酸HPLC分析の結果、米国CDCのLibrary databaseにはない新種の抗酸菌と考えられた。
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: e64	急性呼吸器感染症に罹った患者からの呼吸分泌物中に 存在する新規のポリオマウイルスを同定し、WUウイル スと名付けた。WUウイルス遺伝子は5229bpで、 Polyomaviridaeファミリーの特徴を持つ。系統遺伝学的的分 析から、このWUウイルスは、既知の全てのポリオマウ イルスとは異なっていることが明白となった。オーストラ リア及び米国の急性呼吸器感染症患者2135例中43例から WUウイルスが検出された。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 11424-11429	マレーシアMelakaで、高熱と急性呼吸器疾患に罹ってい た39歳男性から未知のreovirusが分離され、Melaka virus と名づけられた。患者の家族も発症したが、この家族は 発症前にコウモリと接触していた。遺伝子配列分析によ り、Melakaウイルスは1999年に同国Taman島のオオコウ モリから分離されたreovirusであるPulauウイルスと密接な 関係があることが示された。同島住民の血清スクリーニ ングで、109例中14例(13%)が同ウイルスに陽性であった。